

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	カスタムメディカル 研究所	代表者	山本 邦博	法人・ 事業所 の特徴	京浜急行上大岡駅、又は港南台駅からバスで15分「みやのくぼ」バス停下車徒歩3分のバス通りに面した3階ビルの1階にあります。2～3階には同一運営法人グループホームがあり、協同した活動や利用者の日常の交流があります。また近隣の幼稚園や学校との交流会も行っています。当事業所は、職員の明るい声と笑顔にあふれ、利用者様にも雰囲気伝わり暖かい空気に包まれています。
事業所名	Kファミリー日野	管理者	高橋 留理子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	1人	11人	人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ご利用者様の環境変化に合わせて介護支援専門員と職員とで意見を寄せケアプラン作りに努める。	カンファレンスで意見を出しあいケアプラン作りを行えた。	それぞれ達成可能とを感じるがコロナ禍で大変な中利用者様とのコミュニケーションが難しくなっているが上手に工夫信頼関係を築いてください。	達成できていない改善計画に対して次回も継続して取り組み、取り組みを評価して頂ける変化を目標として全職員が業務にあたる。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ環境の中で、今後の為に立ち寄りやすい環境作りを考える。	パーテーション・空気清浄機等導入して消毒清掃換気等をこまめに行い環境作りに努めた。	利用者様が楽しく活動出来る様に廊下歩行の取組み等を続けておられ、努力されている。	地域に根ざした事業所を目指し清潔でオープンな雰囲気づくりを心掛ける。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方々が頼りやすい事業所作りを行う。	地域の方に向けての活動はコロナ禍の為なかなか行動に移せなかった。	地域との関わりはこのコロナ禍においては難しいと感じますが地域の方々には、知られていると感じます。	地域の方々との交流を大切にし事業所が地域にあることで「良かった」と思ってもらえる働きを考える。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ禍の中でも行えることを考え、勉強会を実施し行事等再開されたら積極的に参加するよう努める。	ミーティングでの勉強会の実施を行い。職員の知識の向上に努められた。	行事やイベントはとても難しいと思っていますが、サービス機関等との連携はしっかりと取れていると思います。	個々の利用者様の暮らしに向き合い、地域と連携する事で利用者様の社会参加を助ける。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進委員会で意見を聞き地域が事業所に求めている事を明確にするよう努める。	コロナ禍の為地域の意見でもコロナに関する話がメインになってしまい、地域の声はなかなか聞けなかった。	事業所の取組みは分かり易い。コロナ禍で少人数短時間での会議になった事でより連携がし易くなった。	運営推進会議の在り方を皆さんと共に考え、連携出来る事考える。

F. 事業所の 防災・災害対策	色々な想定を考え防災訓練を定期的にシミュレーションを実施する。	地震発生時想定の実施等を行い、火災だけではなく色々な訓練を取り組めた。	定期的に防災訓練を行っていて、意識は高いと思います。防災訓練も共同開催の可能性など発展的な意見も出たので前向きに検討したい。	一事業所での防災訓練に留まらず、地域と連携したシミュレーションの実現に向けて協力体制を整える。
--------------------	---------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------